



平成 29 年 10 月 31 日(火)
練馬区立開進第四小学校
校長 佐々木 秀之

開四小だより

11月号

相手を思いやる心の表れ ～あいさつ・身だしなみ～

校長 佐々木 秀之

「霜降」を過ぎ、秋も酣といたいところですが、2週連続の台風により雨が続きました。しかし、秋は芸術の秋、読書の秋、勉学の秋、食欲の秋、スポーツの秋と例えられる様に、じっくり物事に取り組んだり、習得したりするのによい季節です。各地からは紅葉の便りも寄せられるようになりました。また、10月末をもって、クールビズ期間が終わりました。

*

5年ほど前、本校の6月の道徳授業地区公開講座でお話をいただいた、かつて航空会社勤務され、客室教育に携わった方に「コミュニケーション」に関するお話を聞く機会がありました。その中で講師の先生は、「あいさつ」は相手とコミュニケーションを図るチャンスであり、「あかるく」「いつも」「さきに」「つづけ(よう)」たいものです。「身だしなみ」とは相手のために行い、相手を不快にさせないよう、言動や服装を整えることだと話されていました。あらためて「あいさつ」や「身だしなみ」を辞書で引いてみると、

「あいさつ」

人に会ったときや別れるときなどに取り交わす礼にかなった動作や言葉。

相手に対して敬意や謝意などを表すこと。また、その動作や言葉。

(大辞泉)

「身だしなみ」

人に不快感を与えないように、言動や服装を整えること。また、その心掛け。

(大辞泉)

と書かれていました。どちらも相手を慮って行う行為と読み取ることができます。あいさつは一人ではできません。そこに自分とは異なる人がいて、その人を思いやる気持ちから発せられるものです。身だしなみは相手のことを思い、身心を整えることであり、服装や化粧などを洗練したものにしようとする気を配り、自分のためにするおしゃれとは異なります。

*

近頃は、あいさつはしていても、気持ちがよいとは言えないあいさつをしている姿を見かけたり、おしゃれには気を配っていても、相手のことを思って身だしなみを整えているとは言いがたい姿を見かけたり、丁寧な言葉遣いをしているつもりでも間違った言葉遣いをしていたりする姿を街中で多く見かけるようになりました。

今週は1年生が「朝のあいさつ運動」をしてくれています。2学期後半の学校生活が始まるにあたり、今一度自分自身を振り返り、相手を慮った「あいさつ」「身だしなみ」「言葉遣い」を心掛け、気持ちよく学校生活を送らせたいと思っています。